

佐藤清明の生涯

佐藤清明(さとうきよあき)は、明治38年(1905)5月9日岡山県浅口郡里庄村(現・里庄町)里見に佐藤龜三郎・ヤスエの長男として生まれる。大正12年(1923)金光中学校(現・金光学園)を卒業し、第六高等学校の助手をしながら、教員免許を取得する。大正14年(1925)福岡県小倉中学校の理科教師となるが1年後、結核を患い帰郷する。昭和6年(1931)清心高等女学校(現・清心女子高等学校)の生物科の教師となり以来56年間の長きにわたり、教員生活を全うする。昭和8年(1933)に結婚し、二男一女をもうける。昭和20年(1945)戦災のため里庄町に帰る。昭和23年(1948)から岡山県文化財保護審議会委員として、県下の文化財を調査した。各種標本の収集と調査研究を生涯にわたって続けた。博物学の権威で、教育・自然・文化の面で多大な功績を挙げた。「里庄が生んだ知の巨人」と言われる所以である。平成10年(1998)9月17日永眠。享年94才。



近水園にて 昭和52年(1977)

【略歴】 大正12年(1923) 金光中学校卒業

大正12年(1923) 第六高等学校助手

大正14年(1925) 福岡県立小倉中学校教諭

昭和3年(1928) 岡山県生石高等女学校教諭、岡山県生石教員養成所教諭

昭和6年(1931)~62年(1987) 清心高等女学校(現 清心女子高等学校)教諭、清心女子大(現 ノートルダム清心女子大学)講師

(その後、県立保育専門学校・県立岡山工業高校・関西学園・岡山労災看護学院等兼任)

昭和26年(1951)~43年(1968) 岡山女子短期大学講師

昭和37年(1962)~47年(1972) 作陽女子短期大学講師

昭和33年(1955)~60年(1985) 岡山大学農学部講師

昭和45年(1970)~49年(1974) 岡山大学医学部講師

昭和50年(1975)~58年(1983) 岡山大学薬学部講師

【栄誉】 昭和52年(1977) 11月 岡山県知事表彰(岡山県私立学校永年勤務)

昭和53年(1978) 6月 文化庁長官功労章受章(文化庁10周年記念)

昭和54年(1979) 11月 私立学校連合会理事長表彰(30周年記念)

昭和55年(1980) 11月 勲五等双光旭日章受章

昭和58年(1983) 1月 山陽新聞賞受賞

【主な著書】『博物科叢話』(1932) 文教書院

『岡山県博物風土記1,2』(1948) 山陽新聞社

『岡山県重要文化財図録2』(天然記念物篇)編集(1954) 富士出版社

『現行全国妖怪辞典』(方言叢書)(1935) 中国民俗学会

『天然記念物調査録 全50巻』(1948~1954)

『岡山県植生図・主要動物植物図33岡山県』(1970) 文化庁

『鴨方町史 本編 第4節 動物と植物』(1990) 鴨方町

など多数



妻・長男・長女と共に
昭和24年(1949)



受勲時の写真 昭和55年(1980)

佐藤清明と柳田國男

佐藤と柳田國男(1875~1962)との出会いは昭和4年(1929)、佐藤が25歳のときである。柳田が桂又三郎と島村知章が主催する『岡山文化資料』第5号に「唾を」を寄稿しているが、同じ号に佐藤は「植物の方言と訛語」を寄稿し、そこから二人の交流は始まった。翌年柳田の出版した『蝸牛考』初版(昭和5年7月)の序文冒頭に、「(前略)又は近頃岡山県に於て、島村知章君佐藤清明君等の集めて居られる動植物名彙などを見ると、(後略)」と「近くの不一致、遠く的一致」に通じる点を評価するとともに、佐藤の名を挙げてその活動を認めている。

佐藤はその後、『岡山文化資料』第2巻5号(昭和5年5月)で「岡山県に於ける「イタドリ」の方言分布論(予報)」を発表し、柳田から評価を得ると、その後次々と全国の方言を集めた方言集を発表する。それは馬鈴薯やハコベ、メダカや蟻地獄といった博物学的なものだけでなく、ジャンケンや片足跳びといった民俗学的な事象も含まれている。佐藤家に残る柳田からの手紙には佐藤の結婚を祝福するものなどとともに、柳田の手許にあるカマキリやメダカの方言データを使用してもよいという記述

日本で初めての妖怪事典『現行全国妖怪辞典』

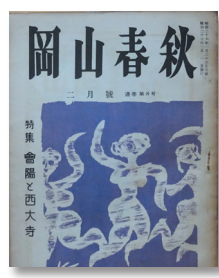
昭和10年(1935)、『現行全国妖怪辞典』が刊行された。現在確認されている中で日本全国の妖怪名を集めてまとめた本はこれが初めてで、柳田の「妖怪名彙」が昭和13年(1938)から『民間伝承』に掲載されていることからその早さがわかる。佐藤は日野巖の『動物妖怪譚』(大正15年)を読んで妖怪に興味を持ち、全国の妖怪名の方言を収集してカードにまとめ、昭和10年に刊行した。佐藤はこの書のなかで34の県と地域から360件の妖怪を紹介している。例えば岡山の妖怪で「妖怪名彙」にも掲載されている「脛(すね)コスリ」は「犬の形をして雨の降る晩に通行人の股間をこすって通る。岡山県小田郡(一二三四)」と掲載されている。妖怪辞典の最大の謎がカードの存在である。佐藤は序で「記述の下の番号はカードの目次で、それを引くと尚詳細の戸籍が判明する。」と記しているが、そのカードは現在発見されていない。おそらく岡山空襲で灰燼に帰したものと思われる。

佐藤清明の研究成果

佐藤は植物学・動物学・民俗学などの研究成果を多くの著作物に著し、雑誌や会報などに寄稿した。



『博物科叢話』



『岡山春秋』



『倉敷昆虫同好会会報』



『後楽』



『植物手帳』



『備中の植物』



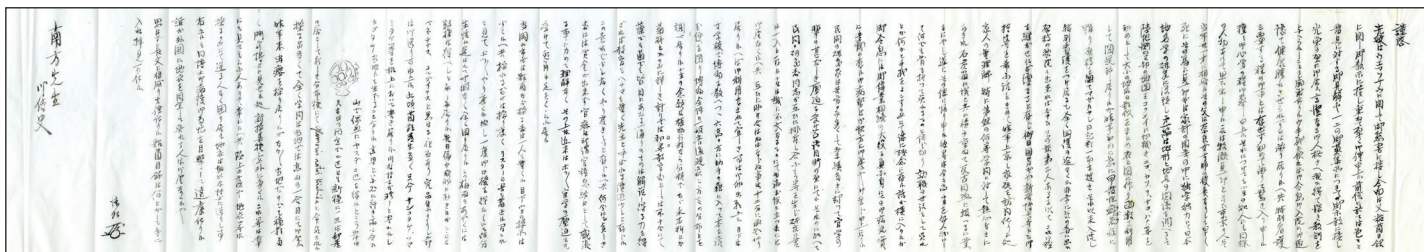
土俗座談会 前列中央が柳田國男、
前列左端が佐藤。昭和6年(1931)

佐藤清明と南方熊楠

和歌山県田辺在住ですでに博物学者として知られていた南方熊楠(1867~1941)と佐藤の交流は、昭和6年から8年までの頻繁な書状のやりとりから分かる。佐藤が地元の富有柿を送ったりしているほか、佐藤は昭和6年と7年に岡山県内で採取した粘菌を熊楠に送っている。佐藤はそのころ動植物などの全国版方言集を多く発表しており、方言学のかたわら本来の植物学の研究にも取り組んでいたことがわかる。一方で、熊楠も弟子の櫻山嘉一が虫こぶについて問い合わせたとき、自分は専門外ということで佐藤を紹介するなど深い交流が続いた。また佐藤は、大阪在住の友人高橋小太郎とともに、晩年の熊楠を直接田辺まで訪ねている。訪問の内容は不明だが、この面会が佐藤に与えた影響は大きく、こののち植物学の研究に傾倒していくとともに、熊楠が昭和16年に死去したのちも佐藤は高橋家を拠点に何度も和歌山を訪問している。



南方熊楠和服正装
南方熊楠顕彰館(田辺市)所蔵



南方熊楠宛書簡 昭和7年(1932)7月1日 南方熊楠顕彰館(田辺市)所蔵

(佐藤が熊楠に、近況報告や博物学への思いについて述べている。)

清明が愛したキクザクラ

後楽園の延養亭前にキクザクラが植えられている。この桜は、宮中において育成された御所桜の一種とされる八重桜で、多くの特徴があり100枚から300枚の花弁があり、花形は球状である。この桜は一時絶えたと言われていたが、明治後半に、旧制第六高等学校(六高)大渡忠太郎教授が校庭の武道場横で育てていた桜を、六高で助手をしていた佐藤が、昭和17年(1942)、里庄村(現・里庄町)の自宅のサクラに接ぎ木をしていた。岡山空襲で、六高のキクザクラは、灰燼に帰したが、里庄村のキクザクラが命脈を保った。キクザクラは昭和6年(1931)御誕生の順宮厚子内親王(昭和天皇の第四皇女、岡山池田家に降嫁)の御紋章に選ばれている。昭和27年(1952)、昭和天皇、皇后両陛下



キクザクラ

🌸 主な佐藤清明ゆかりのキクザクラ 🌸

佐藤家 六高記念館

後楽園 岡山大学

🌸

🌸

下がご来岡されたとき、佐藤は天皇陛下にキクザクラを献上している。昭和28年(1953)、両陛下は、佐藤が提供したキクザクラを延養亭の前庭にお手植えになった。六高記念館、岡山大学農学部前(現在は本部正面前に移植)に植えられたキクザクラも佐藤が自宅に保存していた樹が元になっており、今も毎春花を咲かせている。